各報告タイトルについては省略），そのうちの１セッションは日本に在住する外国人，または海外に在住する日本人をテーマとした研究によって構成されていた．地理学においても国際人口移動研究が新たな潮流のひとつとなっていることを実感するとともに，人口学的な観点から国際人口移動に関する分析を進めていくうえでも多くの知見を得ることができ，有意義な機会であった．

（小池司朗　記）

国際セミナー「貧困測定の多元的なアプローチ」の開催

2019年３月27日（水），慶應義塾大学三田キャンパス北館ホールにおいて，「貧困測定の多元的なアプローチ」をテーマに国際セミナーを行った．本セミナーは，当研究所の特別講演会を慶應義塾大学経済研究所と共催したものである．セミナーのプログラムは以下のとおりである．

解題
「生活保護制度と生活困窮者自立支援制度の課題」駒村康平（慶應義塾大学 経済学部 教授）
基調講演
「世帯はどの支出から減らしていくのか：多元的貧困の測定から」ジャック・シルバ（イスラエル・バル＝イラン大学 経済学部 教授）
貧困研究報告
「MIS（Minimum Income Standard）法による最低生活費の推計：その展開と政策含意」阿部　彩（首都大学東京 人文社会学部 教授）
「日本における貧困の実態」渡辺久里子（国立社会保障・人口問題研究所 企画部 研究員）
閉会挨拶　遠藤久夫（国立社会保障・人口問題研究所 所長）

駒村教授からは，2000年代からの生活保護基準の改定や今後の課題等が提起された．シルバ教授は，多元的貧困測定の理論，実証分析の手法とその結果について講演された．阿部教授は，Minimum Income Standard を用いて最低生活費を算出した研究や子どもの物質的剥奪を分析した研究を報告され，渡辺研究員は Item Response Theory を用いて，世帯がどの順番で支出を減らしていくかの分析結果と，ヨーロッパとの比較を提示した．

（渡辺久里子　記）

日本人口学会2018年度第２回東日本地域部会

2019年３月30日（土）13：30〜16：30に，東京大学本郷キャンパス医学部教育研究棟13階第６セミナー室にて，日本人口学会2018年度第２回東日本地域部会が開催された．テーマは「性に関する情報と人口」で，小西祥子東京大学准教授が組織・企画し，森木美恵国際基督教大学上級准教授の座長のもと，以下の報告等が行われた．

小西祥子（東京大学）「企画セッション『性に関する情報と人口』の趣旨説明」
林玲子（国立社会保障・人口問題研究所）「『包括的性教育（Comprehensive Sexual Education）』をめぐる国際的な議論について」
橋本紀子（女子栄養大学）「世界から見た日本の性教育」